

第2回ESD連続セミナー概要報告

奈良教育大学 中澤 静男

◇実施日時 2022年6月09日(木) 19時~21時

◇方法 ZOOMによるオンライン開催

◇参加者数 48名

◇内容

SDGsを巡る国内の諸課題とESDfor2030の国内外の動向

1. 国内の持続可能な社会を阻害する諸課題

(1) 環境問題(海洋ゴミ)

海の近くの地域だけの問題ではない。つながりをしっかりと意識することが重要。

持続可能な生産と消費を実現する社会へ(SDGs 12)

(2) 度重なる自然災害 東日本大震災による持続不可能性

紀伊半島大水害(2011年)、広島土石流(2014年)、御嶽山噴火(2014年)

鬼怒川氾濫(2015年)、熊本地震(2016年)、九州北部豪雨災害(2017年)

自然災害の多発化、激甚化、広域化

(3) いじめの状況

いじめの認知件数の増加

児童虐待の増加 心理的虐待・ネグレクト

(4) 新型コロナウイルスの感染拡大

2. 日本で拡大する貧困と格差社会

絶対的貧困(1.90米ドル/1日)と相対的貧困(日本の場合 122万円未満/1年)

相対的貧困率の国際比較:日本の貧困率はOECDの平均を上回り、G7では米国について高い

「弱者に冷たい国」になっている

日本の貧困率:14~15% 子ども達の7人に1人。母子家庭は50%が貧困状況

SDGs達成のために、新しい価値や新しいしくみを作っていくことも重要

:学びの支援、経済的支援等

貧困の連鎖とSDGs

貧困の連鎖と再生産

①貧困(親の経済的貧困)→④教育格差(学習・体験の喪失、社会的資本の欠如・つながり喪失)

→⑧低キャリア(低学歴・不安定な就業)→⑩社会的格差(社会的な格差・疎外)→①貧困

貧困の連鎖を断ち切るSDGsの取組こそが「包摂的な社会」の実現

セーフティネットは存在しているのか?機能しているのか

3. ジェンダーの格差

日本ジェンダーギャップ指数(2021年)

経済(117位)、教育(92位)、健康(65位)、政治(147位) 総合(120位)

日本のジェンダー格差は120/156位:先進国で最低レベル

4. 国内のSDGsの取組と今後の展開

SDGsの実施指針（8つの優先課題）

SDGs未来都市・自治体SDGsモデル事業 : 成功事例の普及展開をねらう
生駒市・三郷町・十津川村・斑鳩町

多くの自治体がSDGs達成にむけた取組を推進するようになってきている

← 学校もSDGsなしに学校教育を語れない、というようになってきているか？

大牟田市：地域の文脈に即し、地域の課題に向き合うSDGsの推進

気仙沼市：地域内外の多様な主体の参画と協働によるSDGsの学び舎の創造

5. ブレイクアウトセッション

参加者の地元におけるSDGs関連事業に関する情報交換

6. ESD for 2030

「SDGsの達成に資するESD」という目標の明確化

ESDは内容ではなく、持続可能な社会を創るという方向性を示したもの

2030年のESDの全体的な目的は、17のSDGsの達成を通じて、より構成で持続可能な世界を構築すること。

ロードマップ

GAPの5つの優先行動分野を継承しつつ一部調整

メカニズム①国レベルでのESD for 2030の実施

②パートナーシップとコラボレーション等

ESD ユネスコ世界会議（ベルリン）「ESDに関するベルリン宣言」

カリキュラムに環境及び気候変動を中核要素として位置づける

日本のESDの成果・3つの強み

- ・ESDをナショナル・カリキュラムに組み入れられた 公教育における組織的・計画的な推進
- ・オールジャパンの態勢の構築（ESD関係省庁連絡会議、ESD円卓会議等）
- ・地域の文脈に即したESDを推進している（Local SDGs）

ESDの主な施策

- ・ESD推進の手引き
- ・新ESD国内実施計画を策定
- ・防災・減災へのESDの貢献を発信

※SDGsの今後の展開

- ①諸課題は海外だけでなく国内や地域にも存在すること
- ②SDGsを地域の課題に即して認識する
- ③課題解決に向けて地域から世界への行動を促す
- ④生涯にわたって実践威徳を喚起・持続する